

報道機関 各位

公益社団法人 京都勤労者学園
学園長 寺井基博
(TEL: 801-5925)

「勤労者の生活充実」に向けたニーズと働き方についての意識調査の広報について

新緑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日頃から京都勤労者学園の運営に、ご指導・ご協力をいただいておりますことに御礼を申し上げます。

さて、本学園では、毎年、京都府の援助を受けて、連合京都、京都総評をはじめとした府内労働団体・組合の組合員等を対象にテーマを決めて各種のアンケート調査を実施しています。

今回の調査は、『勤労者の生活充実』に向けたニーズと働き方についての勤労者の意識」をテーマに、ワーク・ライフ・バランスを保ち生活を充実させる上で求められることと、働き方の実態を探りました。

本冊子は、その結果をまとめたものであり、労働団体・組合はもとより、企業や行政機関などで皆様に本冊子をご活用いただければ幸いです。

なお、集計・分析及び監修は、NPO法人京都社会労働問題研究所の協力をいただいています。

調査結果の概要

- 1 京都府内に就労先を持つ労組員を調査対象としており、回答者は男性の正社員が84%、女性は16%程度で、その8割が正社員です。
- 2 働く目的は、「生活の維持手段」
9割の回答者の働く目的は、生活の維持・向上・稼ぐ手段」。次いで、「楽しい生活を送る・生活を豊かにする」がその半数程度(47.8%)でした。
- 3 生活を充実させるためにしていること／したいことの理想と現実のずれ
私的な時間に「今」していることは、「家事」(46.1%)、「(デート、食事・飲み会等)他者と過ごす」(32.2%)、「育児」(21.1%)などですが、「今後」してみたいことは、「スキルアップ学習」(22.4%)、「(デート、食事・飲み会等)他者と過ごす」(20.0%)「副業(小遣い稼ぎ程度)」(14.6%)などで、理想と現実の違いが見受けられます。
- 4 育児介護などの担い手は依然女性
主な担い手は、男性では「夫婦・家族で協力しあう」(46.6%)、「配偶者」(34.7%)ですが、女性は「自分」が49.1%と高率で、「夫婦・家族で協力しあう」(26.6%)が続きます。男性が「自分」(8.4%)とする例は少ないのが特徴です。介護が必要(今後)な場合に、主に担うのは、男性では「夫婦・家族で協力しあう」(48.8%)、「自分」(22.3%)ですが、女性では「自分」と指摘する例が48.8%に上ります。
- 5 仕事と私生活のバランスがとれていない現実
現状では、「仕事優先」と答えた男性が3割を超え、うち一日11時間以上働いている人が43.3%と多いことが注目されます。より充実した生活のために「今」必要だと思うことについて、職場制度面では「休日の増加」(34.0%)と「給与条件の改善」(33.8%)、「職務分担や業務の見直し、効率化」(26.8%)、「要員増」(25.0%)と続きます。環境条件面では「上司や同僚の理解・支援」(40.9%)、「自分自身の意識改革」(38.3%)が指摘されています。

以上から、勤労者の生活の充実を目指すとき、給与や休日などの労働条件、或は職務分担や要員体制、残業削減など働き方の改善が最重要課題で、その上で今の実態が今後の希望に近づけるよう、生活の質を向上させたい勤労者の意欲を後押しする施策が期待されます。